

「未来をえがくキャリア・ノート！」活用・指導の手引（概要）

【学習指導要領総則 第4 児童生徒の発達の支援】

児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、**キャリア教育の充実を図ること**。（その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。）※（ ）内は中学校

キャリア教育…教育活動全体の中で基礎的・汎用的能力を育む

基礎的・汎用的能力

人間関係形成・
社会形成能力

自己理解・
自己管理能力

課題対応能力

キャリアプランニング
能力

特別活動が学校教育全体で行うキャリア教育の要

児童生徒の
意思決定を
重視します

学級活動（3）
一人ひとりのキャリア形成と自己実現

見通しと振り返り
教材の活用

小・中・高等学校の
つながりの明確化

2の（3）の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、**児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること**。（「未来をえがくキャリア・ノート！」の活用）

キャリア教育を効果的に推進していくために

校長のリーダーシップ

校内の組織体制整備

指導計画の作成

職場見学等機会の確保

幅広い地域住民等との
連携・協働

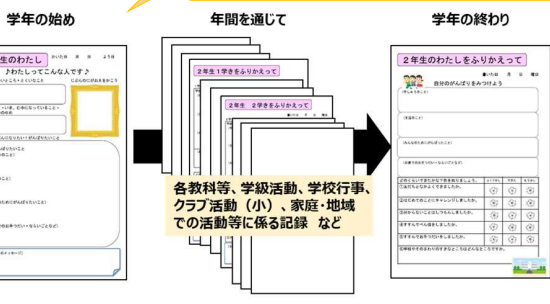


キャリア・ノート活用の意義や効果は？

P3

- ①児童生徒の自己理解を深める
- ②教師による児童生徒の理解を深める
- ③主体性・協働性を育む
- ④児童生徒への関わり方を家庭と共有する
- ⑤系統的なキャリア教育の充実につながる
- ⑥カリキュラム・マネジメントに役立つ

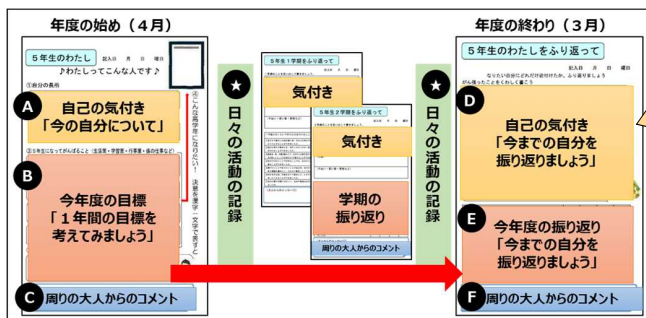
児童生徒が自ら記入します。
学年の初め→学期ごとの振り返り→学年の振り返り で構成しています。



キャリア・ノートの活用方法や内容は？

P4～

- 「キャリア・ノート」は、各学年の初め、学期末、学年末に活用することを基本とする。
- 各学年の初めに今の自分や将来の展望、今年度の目標等を考える。
- 各学期・学年の終わりに今までの自分を見つめ直し、目標の実現状況等を確認する。記述されたものを活用して、今年度の振り返りを行う。
- 振り返りを行うための基礎資料として、日常的に児童生徒の活動の記録等を蓄積しておく。
- 記述や自己評価の指導には、教師が対話的に関わり、一人ひとりの目標作成や修正などを支援する。教師が児童生徒に肯定的に関わり、個性を伸ばす指導を心がけながら、学校・家庭・地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養う。



「〇年生のわたし」と「〇年生（〇学期）のわたしを振り返って」が「キャリア・ノート」です。それをつなぐ日々の活動の記録の蓄積がポイントです。

「キャリア・ノート」活用・指導上の留意点は？

P11～

- ①「キャリア・ノート」の管理について
 - ◆管理は、原則として学校が行う
 - ◆個人情報が含まれる場合があるため、紛失しないように留意する
- ②教師等との対話、児童生徒同士の話し合いを大切にすること
- ③指導する時に配慮すること
 - ◆本人の意思とは異なる記録を強いたり、無理な対話に結び付けたりしないようにする
 - ◆支援が必要な児童生徒には個に応じた適切な対応を行うようにする
 - ◆学年会等において適宜進捗を確認する
 - ◆「キャリア・ノート」の記述や取組状況をそのまま学習評価としない
- ④配慮を要する児童生徒への対応
- ⑤保護者への周知と協力の依頼

「キャリア・ノート」はどのように引き継げば？

P12

- ①学校間…原則として教師間で行う
- ②校種間…
 - 【小→中】卒業時に進学先中学校へ（学校が行う）
 - 【中→高】中学校卒業時にキャリア・ノートを生徒に返却。生徒自身が保管。
 - 【国立学校・他県等への進学】卒業時に「キャリア・ノート」を児童生徒に返却し、児童生徒自身が保管。進学先の学校からの指示があれば、それに沿って対応する。
- ③転出・転入等…転出する児童生徒に「キャリア・ノート」を返却し、転入する学校に提出する。転入してきた児童生徒には、転入前の学校で作成したものを提出するよう求める。
- ④引き継ぎ対象…キャリア・ノートのみ

